

■大槻文彦 数百版を重ねる画期的な国語辞書「言海」をはじめ、辞典の編修・文典の著述・国字問題に著しい業績。

おおつきふみひこ

1847= 江戸で、**儒者大槻磐溪の子に生まれる。蘭方医大槻玄沢の孫、如電の弟。**

万次郎帰国・1852= 5歳：この頃から、父の塾生とともに漢学を学び、

ペリー来航・1853= 6歳：

松下村塾・1856= **9歳**：

五ヶ国条約・1858=11歳：母が死去。

桜田門外変・1860=13歳：

遣欧使節・1861=14歳：林大学頭の門に入る。

生麦事件・1862=15歳：洋書調所に入学、英語と数学を学ぶ。藩命により、一家が仙台に帰る。

8月18日政変 1863=16歳：藩命により父が上洛するのち、従ったのち、仙台に戻る。

林子平と同郷であることなどから、民族意識も高まる。

薩摩藩士密航1865=**18歳**：

薩長同盟・1866=19歳：**密命で横浜へ向うため、江戸出、洋書調所が改称された開成所に入学。**

大政奉還・1867=20歳：アメリカ人などに学ぶ。

明治維新・1868=21歳：**鳥羽伏見の戦に密使として活動、維新後補吏を向けられ、横浜に逃亡後、仙台に戻る。**

戊辰戦争終 1869=22歳：「北海道風土記」を著す。**大獄で父が終身刑となったが、病気を繕う運動をして、**

初の日刊新聞1870=23歳：**出獄を勝ち取り、自らは上京し、開成所が改組された大学南校に入学。**

廃藩置県・1871=24歳：退学し、筑作秋坪の英学私塾に入る。父の謹慎が解かれ、一家も上京した。

学問のすすめ1872=25歳：**文部省に出仕。**

明治6年政変 1873=26歳：「琉球新誌」「琉球諸島全図」。{明六社}に参加。**英和辞書の編纂を命じられる。**

佐賀の乱・1874=**27歳**：師範学校が開校して出勤を命じられ、教科書の編纂に従事、まもなく官立の宮城師範学校の開設をまかされ、校長として基礎をつくった。「万国史略」巻1(文部省刊)を編集。

初の民間工場1875=28歳：文部省に呼び戻され、***上司の西村茂樹から日本辞書の編纂を命じられる。以後、国語の研究に進む。**

三つの反乱・1876=29歳：「小笠原島新誌」「日本文字変革論」。兄の隠居により、大槻家当主となり、本郷に家を新築。

西南戦争・1877=30歳：父が死去。**同志と日本語文法の研究団体(文法会)を結成。**

父死の悲しみのため、親友の招きもあり、家を売り払ってイギリスへ留学しようとしたが、結局辞書編纂の興味を超えず、実現せず、代わりに長期休暇をとって旅行、伊香保温泉に逗留し、円朝などと交わる。

明治14年政変1881=34歳：

その後も、西村茂樹の配慮によって、辞書編纂に熱中。

岩倉具視没・1883=**36歳**：**国字問題に関しては、“かなのくわい”発起人の一人としてさかんに仮名説に論陣を張る。**

秩父事件・1884=37歳：結婚。

内閣発足・1885=38歳：**「言海」の草稿成る。**

帝国大学始・1886=39歳：長女誕生。***10年を費やして、ついに「言海」を脱稿した。原稿は文部省に預かりとなり、**

国民之友始・1887=40歳：文部省を非職となって、第一高等中学校教諭となる。

初の対等条約1888=41歳：文部省から呼び出し、**自費で刊行などの条件で、稿本が下賜され、以後、昼夜無く校訂の作業に取り組み、**

帝国憲法発布1889=42歳：**「言海」の第1冊刊行。「言海」の巻頭には、文法会を起こして同志と討究した成果たる“語法指南”が掲げられている。この年、それまで手伝って貰っていた中田邦行が急逝。**

次女が風邪をこじらせ入院、その死まで看病していた妻も死去。

帝国議会始・1890=43歳：***「言海」の最後の第4冊刊行。盛大な出版祝賀会を開く。画期的な国語辞書として、以後数百版を重ねる。**

足尾鉞毒始・1891=44歳：**ふくと再婚。仙台に戻り、岩手県士族に転籍。**

日清戦争始・1894=47歳：

宮城県尋常小学校長、書籍館長、小学図書館審査委員などを兼ねて、4年近く過ぎたのち、東京で生活。

八幡製鉄始・1897=50歳：**これに改訂を加えたものが「広日本文典」とその「別記」で、翻訳文法の臭みはあるが、後の国文法研究ごとに教科文法には久しく権威をもった。**

Bushidou・1899=52歳：**文学博士。**

ピアノ国産化・1900=53歳：**運動が実って、国語調査会の設立へと至り、その委員となる。**

田中正造直訴1901=**54歳**：根岸に住居を新築。

教科書疑獄・1902=55歳：**国語調査委員会の主査委員として口語文法の調査を担当。**

この間、旧仙台領出身者への育英事業を続け、仙台に関わる著書を出版して行く。

日露戦争終・1905=58歳：

アソキ創刊・1908=61歳：臨時仮名遣調査委員会では表音かなづかいを主張した。

伊藤博文暗殺1909=62歳：前後16年をかけて世の妄伝を正した「伊達騒動実録」を刊行。

韓国併合・1910=**63歳**：

大逆事件判決1911=64歳：**帝国学士院会員。**

明治天皇没・1912=65歳：**富山房から「言海」の増補改訂の勧めがあり、再び辞書暮らしとなる。**

大正政変・1913=66歳：二度目の妻も死去。

民本主義・1916=69歳：**国語調査委員会の調査の成果は「口語法」となり、**

ロシア革命・1917=70歳：**「口語法別記」には口語の源流と分布についての考察がなされ、長く尊重されて行く。**

肺炎で一時危篤、1年ほど中断。

ペリヤ条約・1919=**72歳**：

以後、十数年「言海」の増訂に専心したが、

原敬首相暗殺1921=74歳：

共産党事件・1928=**81歳**：***風呂場で倒れ、肺炎を併発して没した。**

「大言海」は没後、助手の大久保初男の手によって完成し、1932に刊行開始、37年に完了した。

高田宏「言葉の海へ」、明治書院「日本語学者列伝」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、